



馬耳東風

この閉塞感が支配的な世の中にどうしてなったのだろう。過去にも厳しい時代は幾度も経験したが、その都度、プラス思考で持ち直してきた。破綻の背景には巨大化した利己主義的金融資本の暴走を許した制度の限界があるかも知れないが、他の先進国が回復する中、我が国はもたもたしているのはなぜであろう。世の中の価値観が固定し、思考回路が単線化しているのか。新聞報道をはじめマスコミに踊る文字、音声はすべて粗探しに終始している感がある。もう少し物事を達観的にゆとりをもって見られないものか。

約半世紀間続いた自民政権が民主党政権に代わってほぼ6カ月経った。このところ鳩山政権に対する公約未達とか実行力がないとか風当たりが強い。しかし、考えてみればこの批判には無理があると思われる。任期は4年間ある。まだスタートしたばかりなのに実績をもとめる。前政権が半世紀にわたって築いてきた政治手法、政策が数カ月で変革できる訳がない。それほど簡単ならば誰も苦勞はしない。このような報道を反映してか、内閣支持率も低下しているが、毎月のように世論調査をして人気度を測ってみてもしょうがない。マスコミにとっては数字が出るから最も記事にし易い事柄であろうが、人気取り内閣になってほしいと思っているのであろうか。

評価社会は全てが悪いとは思わない、税金の無駄使いがないか、監視することは勿論必要である。しかし、政策の企画、実施、結果の評価には全て表裏の見方があり、万人にとって善などあり得ない。だからといって欠点ばかり掘り出して批判していても物事は進展しない。目先のことだけにとらわれていては将来への展望は開けないし、活動は萎縮するばかりである。

週刊誌的なマスコミの節操のなさにもうんざりするが、野党になった前与党も同様になってしまった感がある。現在の社会は善しにつけ悪しにつけ前与党が築いたものに他ならない。2010年度末には国の借金が国債・借入金合わせて973兆円に達するという試算がある。政策を転換して借金を減らし、子孫の負担を少しでも軽減しなければならないことは当然である。借金時計をみると、今每秒30万円以上国の借金が増加しているという。政党の利権争いなどしている暇があったら、日本の将来についてもっと真剣に議論し具体的な財政再建策を示すべきであろう。かつて日本は経済一流、政治三流と言われた。今や経済二流、政治四流に下がった。

社会それに政治の世界までも減点主義になってしまった現在、展開を逆にするためには思考にはゆとりを持って、実施には迅速性を持って対処するしかないと思われる。ゆとりのない社会には文化は育たない。文化無くして豊かな国にはなれない。

(青)